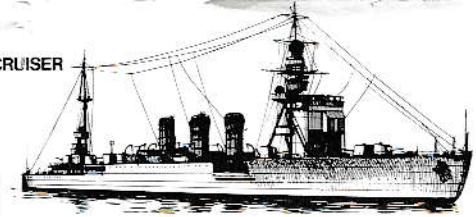
ITEM 31318

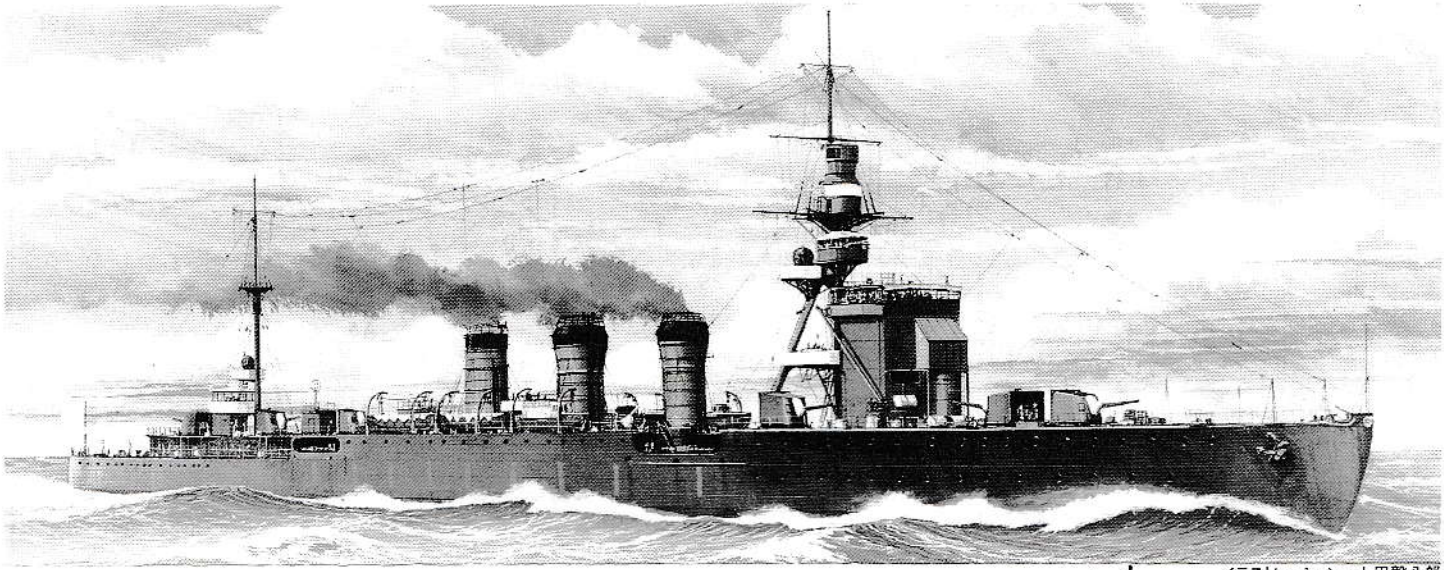
KISO 木曽

JAPANESE LIGHT CRUISER



TAMIYA

ウォーターラインシリーズNO.318　日本軽巡洋艦(きそ)



イラストレーション・上田毅八郎

WATER LINE SERIES

《軽巡洋艦木曽について》

「木曽」――この名は日本アルプスの山中に源を発し、その山々の間を流れ、濃尾平野を経て伊勢湾にそそぐ木曽川にちなんでつけられたものです。木曽川は日本の代表的な河川の一つにあげられますが、この軽巡洋艦木曽も5500トン型と呼ばれる日本の代表的な軽巡の一つでした。

5500トン型軽巡は、大正時代に球磨型5隻、これを改良した長良型6隻、さらに改良した川内型3隻の計14隻が作られていますが、木曽は最初のグループである球磨型の5番艦として作られました。三菱の長崎造船所で起工されたのが大正8年(1919)6月10日で翌9年12月14日に進水、大正10年の5月4日に竣工しました。

設計者は河合定二造船少監で、基本的には大正8年に完成した3500トンの天龍型を大型化したものといえます。

そして、強力な砲力と魚雷兵装と機雷兵装、十分な司令部設備と通信設備、索敵のための航空兵装などを盛り込み、水雷戦隊旗艦、主力部隊の直衛や前衛、哨戒、索敵など軽巡に果せられた諸任務を一つの艦艇で果たせる能力を備えています。

また他国の軽巡の水準をはるかに越えた36ノットという速力、これを実現する最大の決め手となったのが出力90000馬力の強力なギヤード・タービンの採用です。凌波性を重視した乾舷の高い船体、日本人の体格を考え、主砲を外国の軽巡の標準である15cm砲よりも一回り小さい14cm砲にしたこと、日本の巡洋艦としては初めて新造時から方位盤射撃装置を装備したことなど、かずかずの特色をもっていました。

さらに、球磨型は新造時から飛行機搭載の装備をもっていた最初の日本軍艦で、木曽以外の4隻は水偵1機を搭載していました。当時はカタパルトが実用化されていなく、さきに水上機母艦若宮や戦艦山城で実験の結果、成功を納めていた滑走台を木曽に取りつけることになりました。建造中の木曽を改造して、羅針艦橋下方に格納庫を設け、その前方の2番砲の上方に長さ9mの滑走台を設置しました。しかし間もなく滑走台は撤去され、木曽を除く他の4艦は、その後カタパルトを装備しました。

木曽は完成後、球磨型の他の4艦同様、何回も改造され近代化していきました。航空兵装のほか艦橋構造物前面の形が異なっていたこと、後マストが最後まで単檣式だったこと、第1、2煙突は頂部がふくらんでいるが、第3煙突は先端まで同じ太さになっていることなどが異なっており、他の艦との識別点になっていました。

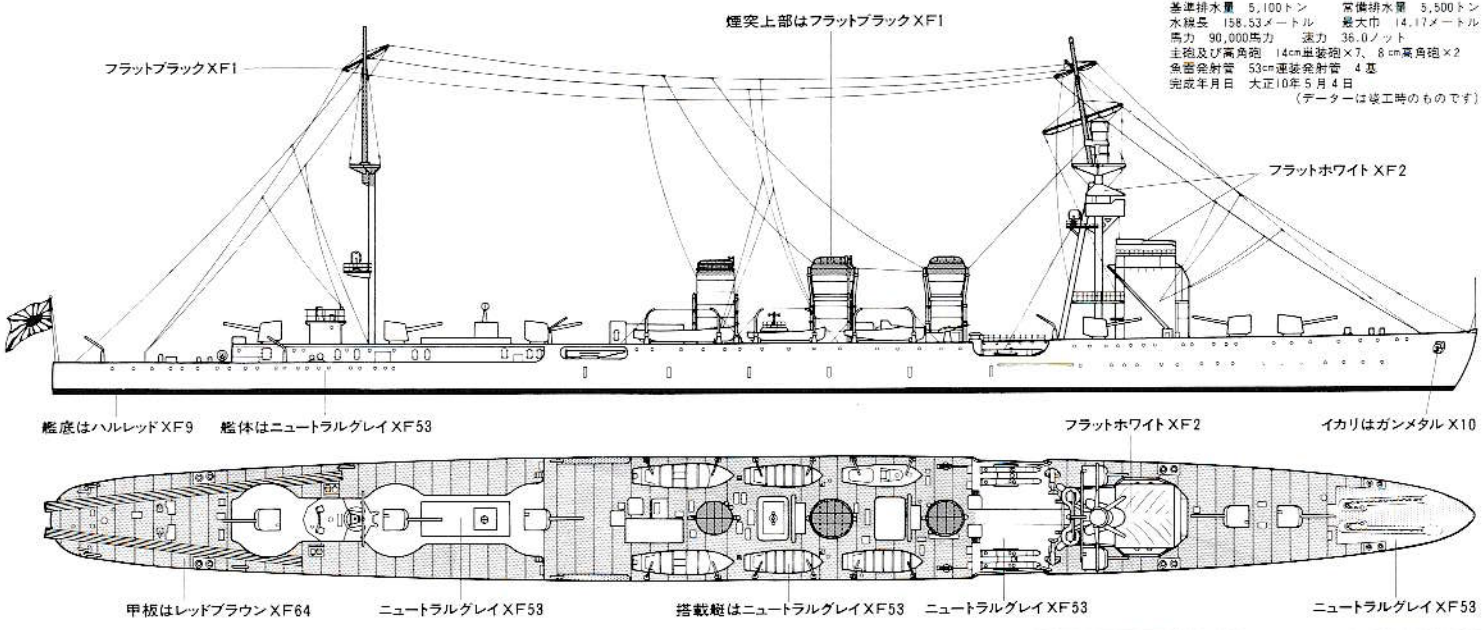
開戦当時の木曽は、14cm砲7門のほかに、25mm連装機銃2基、7.7mm単装機銃2基、53cm連装発射管4基を装備し、排水量は7000トンに達していたといわれています。そして多摩と共に、ハワイ攻撃の機動部隊の帰投援護のため北洋で行動しましたが、その際、船体を損傷し横須賀工廠で損傷復旧工事と船体補強工事を受けました。修理を終えると再び北洋にもどりアリューシャン攻略作戦、占領したアッツ、キスカ両島への人員、物資の輸送などに従事しましたが、この間に25mm装連機銃2基の増設、22号レーダーの追加などが行なわれています。

実験用飛行機発艦装置(滑走台方式)
大正10年当時(新造時)

また18年7月、奇蹟の作戦と絶賛されたキスカ島撤収作戦に参加、作戦終了後は南方へ転戦しました。18年10月、陸軍部隊をラバウルへ輸送した際、敵機の攻撃を受け損傷、内地へ帰り修理を終えた木曽は、父島への陸軍部隊輸送に従事した後19年10月10日、ブルネイを経てマニラへ進出、第5艦隊第1水雷戦隊へ編入されました。

この間に数回にわたり、対空兵装強化が実施され、マニラへ進出したころは、14cm砲を5門に減らしたかわりに25mm機銃が3連装4基、連装6基、単装14基(計38挺)、13mm機銃が連装1基、単装8基(計10挺)に増強されていましたが、19年11月13、14の両日、マニラ港で敵機の空襲を受け、14日に沈没、キスカ撤収の功労艦もついに20数年にわたる生涯を閉じたのです。

モデルは、昭和7年頃の木曽を再現したものです。



0694 ©1994 田宮模型 静岡市恩田原3-7 1/700 W.L.木曽(和)

1 主砲のくみたてととりつけ

《主砲》7個作ります。

A15 A9

《換気孔》 B20 A17

《測距儀》 A35 A10 A17

A40 主砲 A34 主砲 B15 A22 A21

A12 A7 換気孔 A20 測距儀 A18 A6 B5

主砲 B33 主砲 船体

A4 A3 A5 B10

うら側からうす肉の部分に穴をあけます。

A13

A12 A19 A20 A18

2 艦橋のくみたてととりつけ

《艦橋》

★A42は後向きにとりつけます。

B35 フラット ホワイト B34 B31 B32 B30

B21 B26 フラット ホワイト B29 B27 B28 艦橋 B36

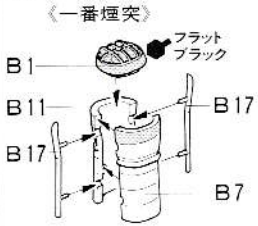
A41 A41 B14 A38

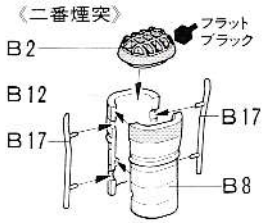
B39 B38 A29 B23 A42

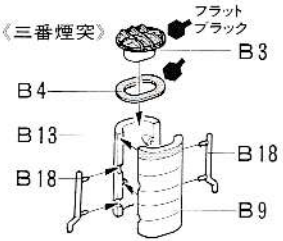
A42 A33

A42 A41 A41 A41 B14 A42

3 煙突のくみたてととりつけ







KISO木曽

ネームプレート（切りとって A2 に貼ります。）

A29　B16　B6　B19　A42　B37　A42　ステッカー

一番煙突　二番煙突　三番煙突

B22

B25

B24

A42

吃水板

バラスト

A2　ネームプレート

不要部品：A1、A8、A11、A14、A16、A23、A24、A25、A26、A27、A28、A30、A31、A32、A36、A37、A39、A10の1個。

PRINTED IN JAPAN